

## 第3回 富岡シルク手編みニット展に寄せて

### ～富岡シルクで新たな発見～

世界中の人々を魅了した光り輝く日本のシルク。その礎となったのは、明治5年（1872年）富岡の地に創建された富岡製糸場でした。明治42年（1909年）、世界一を誇った日本の生糸輸出は、外国産の安価な生糸に圧され、現在では市場の僅か0.1%以下となり、とても希少なものとなりました。

令和5年度、富岡市では8戸の養蚕農家と1団体、1企業にて養蚕が継承され、年間の繭生産量は5.4tと推移しています。

“富岡シルク”を、より身近に感じていただきたいとの“おもい”から、今回、素材は富岡市の養蚕農家が丹精込めて生産した希少な繭から繰糸した【上州座繰絹糸】と、蚕が繭をつくるときに最初に吐く繭糸【きびそ】また、第3回を記念して開発された新作の【真わたループシルク】の3種類をご提案いたしました。

昨年8月に、富岡シルク絹糸を使用した手編み作品の公募を行いましたところ、北は秋田県から南は鹿児島県に至るまで、全国から幅広い年齢層の方々にご参加いただくことが叶いました。

本企画展では、富岡シルク絹糸を使用して、一目一目手編みで真心こめて製作していただいた力作ばかりを一堂に展示しています。出展者の皆様の養蚕、繭、シルクに対する“おもい”が繋がり、そのたくさんさんの“おもい”が“結晶”となり、作品とともに会場で美しい輝きを放っています。

富岡市をはじめ、関係各位の皆様のご協力のお陰で、本企画展を開催することができましたこと、また富岡シルク絹糸を実際に手に取ってくださり、心を込めて素晴らしい作品に仕上げてくださいました出展者の皆様へ心より感謝申し上げます。

皆様の未来がシルクのように美しく光り輝くよう願いを込めて。

(一社) 富岡シルク推進機構  
理事長 高橋 純一